



宮城小通信

郡山市立宮城小学校

学校便り No.65

令和6年3月14日

文責：校長 伊藤 孝行

3. 1 1 命を考える授業。

2011年3月11日に起きた東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所爆発事故は、未だ収束しおらず、浜通りには帰還困難区域が今も設けられています。

子どもたちの年齢を見ると、6年生の子どもたちにとっても、大震災や原発事故は生まれる前の出来事になってしまいました。しかし、地震が多い日本では、2016年には熊本県で震度7の地震が起こり、今年の元旦には能登半島でも震度7の地震が起こり、多くの被害が出ました。



3月11日は、忘れてならない日として「命を考える授業」を行いました。授業の主な内容は、

- ① 東日本大震災とはどんなものだったのか
- ② どんな被害があったのか
- ③ 学校や体育館の安全について
- ④ 家庭における地震に対する備えについて

子どもたちは、真剣な態度で授業に臨み、小学生でも一人一人ができることを考えました。

卒業式の練習が始まりました。

3学期も大詰めとなり、22日（金）は、学校にとって一番大切な卒業式となります。

1年間のまとめとしての卒業式が、しっかりとできるよう12日は、1回目の練習を行いました。



6年生は、卒業生として一人一人が自覚をもっ

て練習に参加していました。5年生は下級生の代表として、4年生以下をリードしようと真剣な態度で参加しています。4年生以下も良い感じの緊張感を持ちながら、練習に参加していました。

初めて卒業式に参加する1年生は、上級生の雰囲気から、きちんとしなければならないことを感じ取ったようで、とても立派な態度で練習に臨んでいました。

学校全体で、6年生の卒業をお祝いするという温かい雰囲気がとても良いと感じました。

中学校の卒業式に感動を覚えました。

昨日は宮城中学校の卒業式でした。学校を代表して参加させていただき、生徒たちの姿に感動を覚えました。



小学校の卒業式との一番の違いは、義務教育が終わり、卒業後の進路が様々になるという点です。

3年間、力を合わせて頑張ってきた仲間と、この日を境に別れるというのは、簡単に言葉にできないものがあると思います。

卒業おめでとうございます。皆さんの未来に幸多からんことをお祈りしています。

3月17日（日）は春彼岸の入りです。

3月20日（水）の春分の日（春彼岸の中日）で、17日（日）が春彼岸の入りに当たります。

仏教では、昔から西に極楽浄土があるとされています。太陽が真東から昇り、真西に沈む「春分の日」は、西方の極楽浄土と現世が最も近づく日とされています。

そのため、ご先祖様や亡くなった方が極楽浄土で過ごしてほしいという願いも込めて、供養するのに適した期間とされています。